



## 校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第1号 令和4年4月11日

小美玉市立美野里中学校

今年度のテーマは、先生も生徒も

### 「自立」に向けて「自分から」

昨年度に引き続き、校長を務めます皆川修（みなかわ おさむ）と申します。よろしくお願いいたします。

私の教育信条は、「子供たちの自立を支える」です。これは、今年度の学校経営でも変わることはありません。昨年度の校長室だよりで、様々な角度や話題で、私の「自立」に関する考えを述べさせていただきました。新入生の保護者の皆様方には、HPにある令和3年度の校長室だよりもご覧いただければ幸いです。

さて、今年度、その自立に向かうために「自分から」ということを合い言葉にしていこうと考えています。先生方も、生徒の自立に向けて、「こんな授業をしてみたい」「生徒にこんな力を身に付けさせたい」「こんなクラスや学年にしていきたい」という意欲とアイデアに満ちています。4月1日から話し合いを始めていますが、教科ごとあるいは学年ごとに様々なアイデアが出されました。今後それを具現化してまいりたいと思います。

私は、「自分ってどういう人なの？」ということ深く考えていくことが、中学生の時期にはとても大切だと思っています。

「自我の確立」などという言葉がありますが、思春期は、自分の長所や短所を客観的に見つめられるようになる時期です。また、人との比較も現実的にするようになるからこそ、心の中に大きな葛藤が生じることとなります。「自分は自分」という確固たる「自分づくり」の入り口に立つ時期ですから、悩みが生じるのはある意味当然のことです。

しかし、悩んだまま立ち止まってしまうのではなく、今できる範囲で、「自分から」チャレンジしていくことで、視野がどんどん広がっていくのも、また確かなことでしょう。人任せだったり、人から与えられたものを享受したりするだけでは、視野や創造性は広がりません。

例えば、ゲームにしても、「やる側」と「つくる側」では大きな隔たりがあります。ゲームは、コミュニケーションツールとしてはとても楽しいものだと思いますが、「やる側」は、「つくる側」が設定したルールや機能の中でしか楽しむことができません。一方、「つくる側」は、創造的な仕事をしているのですから、可能性は無敵大です。様々なことに思いを巡らせ、スキルをアップしていけば、今まで誰もつくらなかったゲームをつくることができます。

ゲームを例にとりましたが、他の仕事や料理など日常の営みも同じことだと思います。

自分が主体となって「大きな世界」「自由な世界」を手に入れるためには、「自分から」アクションを起こすことが不可欠です。「自分から」行動することによって、可能性はどこまでも広がります。

私は、学生の頃、「教育は人格の完成を目指す」と教わったと同時に、「人格とは、可能性・可変性である」とも教わりました。つまり、人は誰でも自分自身を変えることができます。学校は、そのための学びの場です。我々、教員はそのお手伝いをするために奮闘努力しています。どうぞ、お子様のことで悩みがありましたら、何でもご相談ください。ともに考えていければと思います。校長にも、様々な機会に気軽にお話しいただければと思います。

